

科目名	臨床病態学 I (病理学) Clinical Pathophysiology and Therapeutics I		担当教員 (研究室番号)	中井 桂司 (非常勤)		教員への連絡方法 (メールアドレス)	kyomutanto@ml.mcn.ac.jp					
履修 年次	1年次 後期	科目 区分	専門支持科目		選択 区分	必修	単位数 (時間)	2(30)	授業 形態	講義	科目等 履修生	否
											オープン クラス	否
科目 目的	将来の医療プロフェッションとして、病理学の知識の修得を通して、細胞生物学、解剖学、生理学、生化学などの基礎医学の知識を整理するとともに、疾病における組織・細胞・分子レベルでの原因・病態・症候のメカニズムを理解し、内科学、外科学、整形外科、小児科学、産婦人科学などの臨床医学の知識の習得にもつなげます。同時に、大学生として期待される能動的学習態度や科学的・論理的思考法を身につけます。											
ディプロマ・ ポリシー (DP)	主要なDP	E 看護専門職者としての役割を認識し、看護の実践に活用するための専門的知識を身につけている。										
	関連する DP	G 身につけた知識を基盤に、収集した情報を科学的・論理的に分析し、人々の健康に関する課題を把握する能力を身につけている。(思考・判断)										
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 総論 病理学の基本的な役割と目標、疾病に関する基本的な概念を理解し、病理学総論の知識を習得する。 各論 主な領域の代表的な疾患、その症候の発症メカニズムと治療法の理解に必要な病態メカニズムの知識を習得し、説明することができる。 全体を通して、能動的学習態度と、科学的・論理的思考法について、実践的に学び、身につける。 											
成績評価方法 (基準)	講義は、構成主義に基づくアクティブ・ラーニング形式で行い、各自の予習と復習を支援するため、形成的評価を毎回行います。講義前にポートフォリオの提出を求め、評価対象とし、さらに、グループ討論や毎回実施する小テスト等、適宜提示する課題への提出物、第8回目の講義で、病理学総論の中テストを行い、各自の学習意欲や成果、および論理性や思考力を総合的に評価し成績とします。											
再試験の有無と 基準等	講義中に行う、中テストと小テスト、ポートフォリオ、グループワークの評価が単位認定レベルに届かない場合は、再試験を受験し、その合格が必要です。											
教科書	臨床病態学 (全3巻) 北村 聖 編: (ヌーヴェルヒロカワ)											
参考書等	「よくわかる病理学の基本としくみ」(秀和システム)											
学生の主体性を伸ばす ための教育方法と 学生への期待	アクティブ・ラーニング形式と形成的評価法を導入し、国家試験にとどまらず、将来、特定看護師など専門看護師をめざす基礎にもなるよう、実践的かつ論理的な医学知識の習得をめざします。学び、成長するのは、あなた自身ですので、この講義をただ受け身に聴くだけでは目標に到達できません。ポートフォリオ、講義、グループワーク、小テストや中テストなどから、自ら能動的学習プロセスを展開し、将来の医療プロフェッションとしての基礎を築いてください。みなさんが元気に学習する様子を拝見するのを楽しみにしています。											
備考	無断欠席・遅刻、ポートフォリオや小テストおよび課題ワークが未提出、内容が貧弱、など、講義期間中に不適切な学習態度がみられる場合、講義中に特別発言を求めたり、個別に課題を課するなど、その後の行動変容を期待し、適宜、助言や注意喚起をします。それでも学習行動の変容や成果がみられず、到達目標に未達成と評価される場合、再試験を受験し合格しないと単位が認定できません。											
回	学習項目		学習内容					主担当 教員	授業 方法			
1回	病理学総論1: 病理学入門、病因論、遺伝子異常		病理学の目的と歴史、著名な病理学者について概説したのち、病理学と臨床病態学の理解に必要な遺伝の知識、セントラルドグマ、遺伝子異常の病態メカニズムと、遺伝性疾患について知識を習得します。					中井	講義			
2回	病理学総論2: 染色体異常と先天性疾患		生殖のしくみ、主な染色体異常の病態メカニズム、先天異常・奇形の発症メカニズムについて知識を習得します。					中井	講義			
3回	病理学総論3: 細胞と呼吸、細胞の障害と修復、代謝障害		細胞の呼吸のメカニズム、細胞の障害の原因についての知識を習得し、その修復のメカニズム、さらに、細胞死、過形成や変性について理解をすすめます。栄養障害について知識を整理します。さらに、加齢による老化について理解をすすめます。					中井	講義			
4回	病理学総論4: 循環障害		血液循環についての解剖学、生理学などの基礎医学の知識を整理し、循環障害の病態メカニズムの知識を習得します。					中井	講義			
5回	病理学総論5: 炎症と感染症		障害に対する生体の反応である炎症のメカニズムについて、知識を習得し、そして、炎症に関わる免疫システムの概要と、病原体の種類、また、感染症まで理解をすすめます。					中井	講義			
6回	病理学総論6: 免疫		免疫システムの概要とメカニズム、さらに、自己免疫疾患、アレルギー疾患の病態メカニズムまで理解をすすめます。					中井	講義			
7回	病理学総論7: 腫瘍		良性腫瘍、悪性腫瘍の違い、腫瘍の発生メカニズム、そして、腫瘍に対する生体の反応と症候などの悪性腫瘍の臨床病態について、予後、悪性度、進展度の評価法について、理解をすすめます。					中井	講義			
8回	病理学総論8: 中テスト		病理学総論の内容について、中テストを行います。					中井	講義			
9回	病理学各論1: 呼吸		呼吸器疾患の理解に必要な解剖学や生理学の知識を整理し、重要な症候の発症メカニズムと、主な呼吸器疾患の病態メカニズムについて、知識を習得します。					中井	講義			

回	学習項目	学習内容	主担当 教員	授業 方法
10回	病理学各論2：循環	循環器疾患の理解に必要な解剖学や生理学の知識を整理し、重要な症候の発症メカニズムと、主な循環器疾患の病態メカニズムについて、知識を習得します。	中井	講義
11回	病理学各論3：消化吸収、栄養代謝	消化吸収のしくみの理解に必要な解剖学や生理学の知識を整理し、重要な症候の発症メカニズム、主な消化管疾患の病態メカニズムについて知識を習得します。さらに、栄養代謝の基礎知識を確認し、糖尿病、高脂血症やメタボリックシンドロームなどについて理解を進めます。	中井	講義
12回	病理学各論4：排泄（肛門、肝臓と腎臓）	排泄システムとしての肛門、肝臓と腎臓について必要な解剖学や生理学の知識を整理し、重要な症候の発症メカニズムと、肝不全、腎不全の病態メカニズムについて、知識を習得します。	中井	講義
13回	病理学各論5：制御1（神経系）	神経疾患の理解に必要な解剖学や生理学の知識を整理し、重要な症候の発症メカニズムと、主な神経疾患の病態メカニズムについて、知識を習得します。	中井	講義
14回	病理学各論6：制御2（内分泌系）	内分泌疾患と代謝疾患の理解に必要な解剖学や生理学の知識を整理し、重要な症候の発症メカニズムと、主な内分泌疾患と糖尿病の病態メカニズムについて、知識を習得します。	中井	講義
15回	病理学各論7：制御3（血液と免疫）	血液疾患と免疫異常の理解に必要な解剖学や生理学の知識を整理し、重要な症候の発症メカニズムと、主な血液疾患と免疫疾患の病態メカニズムについて、知識を習得します。	中井	講義

学 習 課 題

毎回、小テストを実施します。講義開始前に、自己学習の記録としてのポートフォリオの提出が必要です。適宜、課題を提示する場合があります。小テストやグループワークは、採点后、原則として各自に返却し、解説講義を行い、理解が深まるようにします。中テストは返却しません。2年生前期の臨床病態学II（内科学）の第1回講義において、病理学各論の中テストを行います。この中テストは、臨床病態学II（内科学）の成績評価に含まれます。

実務経験を活かした教育の取組

総合内科専門医としての実務経験を活かし、臨床病態学の理解が容易となるような具体例を交えながら、学生の理解を支援します。